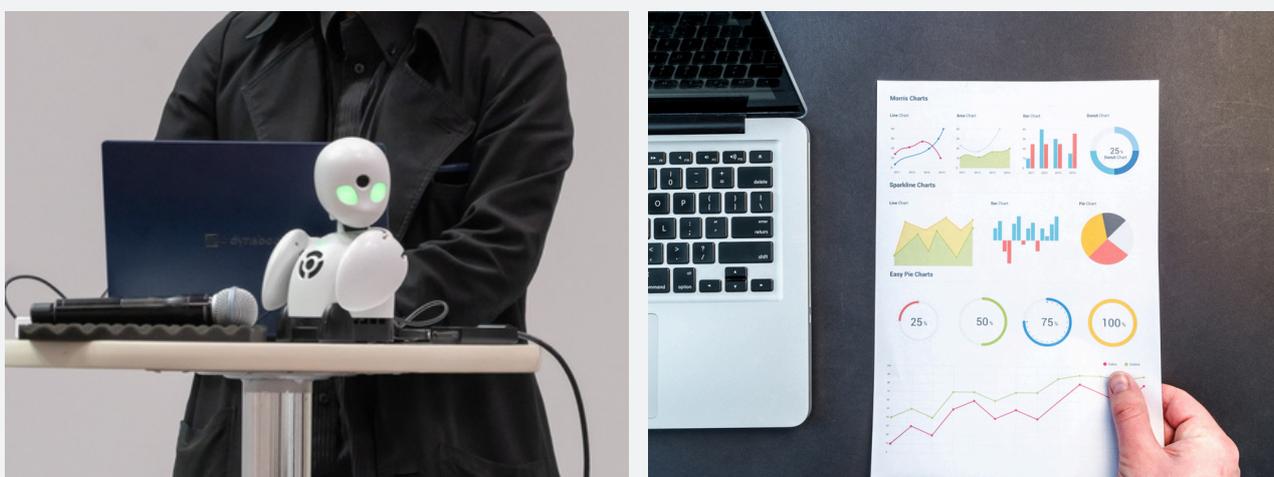


これからの福祉の可能性について考察

全国青年会の総務DX推進委員会では、株式会社オリィ研究所との共同研究事業として、「異業種コラボ～青年会が変われば福祉が変わる～」をコンセプトに分身ロボット「OriHime」の新たな活用方法を検討した。

障がいがある方や外出が困難な高齢者、ひきこもりの方などの社会参加に向けた新たな可能性をともに考える動画制作、実証実験を行った。



分身ロボット OriHime

株式会社オリィ研究所が開発している遠隔コミュニケーションロボット。

生活や仕事の環境、入院や身体障がいなどによる「移動の制約」を克服し、「その場にいる」ようなコミュニケーションを実現する。人工知能（AI）の搭載はなく、スマホやタブレットの専用アプリを通し、人が会話をしながらOriHimeの顔や腕を動かすことができる。学校や会社、あるいは離れた実家など「移動の制約がなければ行きたい場所」にOriHimeを置くことで、周囲を見回したり、聞こえてくる会話にリアクションをするなど、「その人がその場にいる」ようなコミュニケーションが可能。

検証参加法人

- 社会福祉法人八千代美香会（千葉県）・・・P2
- 社会福祉法人佑啓会（千葉県）・・・P2
- 社会福祉法人玉美福社会（大阪府）・・・P3
- 社会福祉法人北杜（秋田県）・・・P4
- 社会福祉法人渡良瀬会（栃木県）・・・P6
- 社会福祉法人まみゆり会（山梨県）・・・P7

全国青年会YouTubeにて動画を公開中



福祉の多様性と未来を考える ー前編・後編ー

OriHimeの福祉施設での活用について、オリィ研究所とディスカッション。
ディスカッション会場：分身ロボットカフェDAWN ver.β



ロボットの新たな活用が福祉の未来を変えるー保育施設編ー

保育施設でOriHimeを試験導入し、園児との触れ合いに活用した様子を紹介。
検証法人：社会福祉法人八千代美香会（千葉県）



ロボットの新たな活用が福祉の未来を変えるー障がい福祉施設編ー

相談支援やパン販売の場面でどのようにOriHimeを活用できるのか、障がい福祉施設で試験導入した様子を紹介。
検証法人：社会福祉法人佑啓会（千葉県）



【高齢】社会福祉法人玉美福祉会（大阪府）

検証事業所名

高齢者ケアセンター向日葵

1_導入方法

特別養護老人ホーム内での喫茶活動で、高齢者による遠隔操作（ウェイトレスとして）、または、喫茶スペースまで移動することが困難な方の分身として喫茶に参加する（お客様として）。

デイサービス内での見守りとしての機能や、高齢者施設と保育施設・小学校の交流会にて職員の分身となってコーディネーターの役割を行う等といった導入も試行した。

2_導入結果

見た目の物珍しさも加わり、高齢者の方々や子ども達からは、「なにこれ！」と好感触だった。実際に分身としてOriHimeに入っていた方も、様々な動作が可能であることや、カメラの可動域によりどこからでもその空間に参加している形がとれる点が好印象だった。

特別養護老人ホームや介護保険サービスを利用している高齢者の方の反応として、パイロット（遠隔操作者）の場合であってもオリヒメと対面している場面であっても、音声聞き取りづらいという感想が多かった。マイクやスピーカーの性能でこの部分は解消出来ると思う。また、認知症の方や精神疾患を患っている方は、怖がったり怒ったりして敵対心を抱いてしまう方が多かった。



【高齢・障害】社会福祉法人北杜（秋田県）

検証事業所名

障がい者支援施設ほくと、特別養護老人ホーム中通

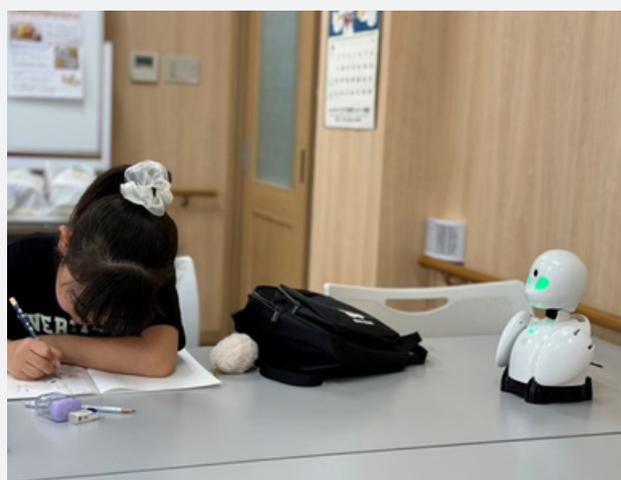
1_導入方法・結果①

障がい者支援施設×こども食堂：施設利用者がこども食堂の参加者に算数の授業を実施

障がい者支援施設の入居者O様が講師として参加し、事前に渡したプリントの範囲内で解説してもらった。質疑応答しながら、30分程度実施した。

O様からは「普段ない、施設外の、しかも小学生と交流ができてとても楽しかった。」と感想を得られた。また、こども食堂参加者の小学生からも「ロボットに教えてもらって、楽しかった。反対にロボットに問題を出したのがおもしろかった。」という感想を聞くことができた。

O様は数学検定等にも挑戦しているため、自分の得意な分野で外部と手軽につながりをもち活躍することができた。



2_導入方法・結果②

特別養護老人ホーム×高校：朝の挨拶運動

高校の生徒玄関にOriHimeを設置し、特養の利用者が挨拶運動に参加した。

挨拶をする中で、ロボットに反応して挨拶以外にも話しかけてくれる生徒が見られた。OriHimeが手を動かしてジェスチャーすると、盛り上がって反応してくれていた。操作者（特養利用者）側も、通る生徒にあいさつや「頑張ってるねー」等の声をかけていた。

挨拶運動に参加した利用者からは「普段見ない学校の登校風景を見るのが新鮮だった」「話しかけるタイミングが難しかった」「元気をもらった」などの感想が聞かれた。対応した職員からは「発声練習になっていた」「楽しんで参加している様子が見られた」と報告があった。高校側で対応した立場としても、利用者と高校生が互いに楽しむことができていたのではないかと感じた。

高校生の歩くスピードが速いため、高校生から挨拶をしてくれた場合には利用者からの挨拶が間に合わなかった点が課題だった。



【障害】社会福祉法人渡良瀬会（栃木県）

検証事業所名

多機能型事業所（生活介護・就労継続支援B型）
コミュニティーセンターよこまち（水車）

1_導入方法

就労支援でカフェの運営や焼き菓子等の外部販売を行っている。外部販売には限られた利用者のみ参加しており、なかなか参加することが難しい利用者がある。

商業施設や市役所等での外部販売にOriHimeを設置し、障害特性や体調等で現地参加することができない利用者に対してOriHimeを通して参加していただいた。

2_導入結果

精神障害があり直接お客様とふれあうことが難しい利用者が、OriHimeをとおして参加することで、社会参加や新たな体験をすることができた。「いらっしやいませ」と声をお客様にかけることができ、人とのコミュニケーションで新たな関わりを体験することができた。



【保育】社会福祉法人まみゆり会（山梨県）

検証事業所名

押原こども園

1_導入方法

保育者の人材不足や、職員自身の子育てにより、仕事と家庭の両立に苦勞している職員が多くいる。人材不足の解消を目的として、絵本の読み聞かせ場面で導入した。

少人数（6名）に対する絵本の読み聞かせと、大人数（30名）での読み聞かせを実施して比較した。OriHimeのパイロット（操作者）は別部屋で園の職員が務めた。事前に読む絵本の打ち合わせを実施し、パイロットの読み聞かせに合わせて現場の職員がページをめくるという流れで検証した。

2_導入結果

子どもにとってはOriHime自体が別人格のロボットである認識だったようで、身振り手振りやお話しをできるという点が愛着が湧いている様子だった。

少人数を対象にした読み聞かせでは、静かな環境で集中して聞き入る姿がみられた。

大人数になると音声聞きづらくなり、絵本を楽しむのは一部に限られているようだった。実施方法を検討する必要があると感じた。

また、OriHimeの身振り手振りを活用して工夫するなど、操作する側にも慣れが必要と感じた。

